

(第3種郵便物認可)

しょうがく せいしん しょうがく
小学生の進路・進学

分 か る と 快 感 !

Z 会 ナビ

算数

理科

▶ 歴史

地理

お題

弥生時代に新たに登場した「なりわい」とそれによる社会の変化とは？

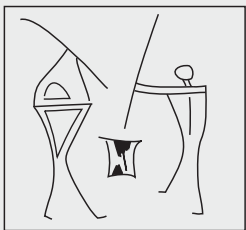
(名古屋大学 2011年 日本史)

下の図1・2は、弥生時代のなりわいに関する写真と絵画です。これらが示す、ある「なりわい」が登場したことで、弥生時代にどのような社会の変化が起きたか説明しなさい。

(図1)



(図2)



「弥生時代」とは、紀元前5～4世紀ごろから紀元後3世紀ごろまでの時代です。そのころ、新たに登場した「なりわい」とは何でしょうか。問題で示されている2つの図を見てみましょう。

2つの図が示す「なりわい」とは？

図1は2つ穴のあいた石器です。これは石包丁と呼ばれる道具で、穴の部分に麻ひもを通し、ひもの部分に指をかけ、鋭くなっている弧の部分で稲穂を摘み取りました。



イラスト・瑞木匠

稲作がもたらしたこと

図2は二人の人間が杵で何かをついている様子が描かれています。これは、石包丁で摘み取った稲穂を臼に入れ、杵でついて籾殻を落とす、脱穀の様子を表しています。

図1・2はともに稲作の様子を表したもので、問題にある「なりわい」とは、弥生時代に大陸から伝来した稲作をさしていたのです。

狩猟・採集生活から農耕生活へ

では、稲作が登場したことで起きた社会の變

化とは何でしょうか。弥生時代の前の時代の縄文時代には、狩り・漁で獲った動物や摘んできた植物を食料としていたため、食料を安定して確保することが難しく、人口を増やすことがなかなかできませんでした。それが、弥生時代になり稲作が始まると、ある程度計画的に食料が得られるようになり、食料の保存も楽にできるようになったので、安定した食料の確保が可能になりました。また、狩りや漁は一人でも行えますが、稲作は場所も道具も大がかりなものが必要であり、いくつかの家族が集まり、共同で作業をする必要があります。そうしたことから、生活をともに営む集落の人数は縄文時代よりも大きく増加していきました。

その中で、稲作の共同作業を指揮するリーダーが現れました。彼らは茶ったコメを富としてたくわえ、その他の人々よりも身分が高い者としてふるまうようになりました。弥生時代に稲作が伝わったことで、多くの人が住む集落とそのリーダーが登場したことが、「むら」の誕生につながっていったのです。【Z会・河原井彩】

! 今回の教訓

おコメを作るようになったことが、日本の社会ができるうえで大きな役割を果たしていました。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編纂を担当。趣味は乗り物に乗ること。将来は猫と2人暮らし(希望)。新潟県生まれの埼玉県育ち。